

## ●単行本『不登校・ひきこもりが終わるとき』出版記念

講演&全員トーク

# ひきこもる心を 楽にする集会

略称:ひき心楽集会(ひきしんがくしゅうかい)  
～当事者の声から対応・支援を考えよう～

## ●相談機関「ヒューマン・スタジオ」新規業務開設記念

当事者の皆さん、この会に参加して発言してください！

☞何に困っている(いた)か。それを解決するにはどうしてほしい(ほしかった)か。

☞何をしたい(したかった)か。それが実現するためにはどうしてほしい(ほしかった)か。

たとえば・・・散髪、服装、栄養、体力、虫歯、お金、買い物、手続き、家族、支援、 etc.

### ●プログラム●

1. リレートーク『教育・支援の視点から当事者の視点へ～メールマガジン愛読者に聞く～』

(1)不登校編<加藤誠之(高知大学准教授) (2)ひきこもり編<関水徹平(立正大学講師)

2. 出版記念講演『教育・支援の論理から生活の論理へ～メールマガジンが本になるまで～』<丸山康彦(ヒューマン・スタジオ代表兼相談員)

3. テーマ別グループトーク『聴きたい!言いたい!～私 or 本人の生活～』

(1)不登校を支援するとは～フリースクール、家庭教師 etc. ～<桑原和也(明星大学講師)

研究と子どもの現場での実践を積み重ねている不登校経験者のお話と全員のディスカッション。

**(2) ひきこもり生活を語り合おう～困りごと・やりたいこと～**＜伊藤書佳（編集者）＞

ひきこもっていて、困ったことややりたくてもできないこと、それをどうしてほしいか出し合う。

**(3) 本人が望むプロセスとは～“階段”より“スロープ”を～**＜丸山康彦＞

当事者の今後の人生が「階段」ではなく「スロープ」になる家族の対応と支援システムを考える。

**加藤誠之**：東京大学大学院で不登校について学び、法務省に入省し少年院教官、保護観察官をつとめた異色の教育学者。

**関水徹平**：早稲田大学大学院で社会学を学び、支援団体でボランティアも経験。現在、立正大学社会福祉学部講師。

**桑原和也**：不登校から大検（高認）を経て明星大学大学院で教育学を学ぶ。当時から現在まで複数の支援団体等で活動。

**伊藤書佳**：中学で不登校になり教育市民運動のミニコミ紙づくりに関わり、出版社勤務を経てフリー編集者。

**期 日**：4月12日（土）

**時 間**：午後1時30分～5時00分

**会 場**：神奈川県立青少年センター  
研修室1（裏面に地図）

**定 員**：45人（当日参加可）

**参加費**：700円（当事者300円）

**特 典**：単行本は参加費を差し引いた

1000円で購入可